

ふるさと御所 歴史探訪

おかげ参り〈5〉

ます。立山は町ごとで作られ、大関・関脇等にランク付けされて、そのうちの11件には、短い批評が付け加えられています。参加した町の数は19ですが、大関・関脇・小結が各3件、前頭等が39件で合計48件です。宇治橋、万金丹屋店等、伊勢に關係あるものがいくつもあります。これらが町中に飾られ、非常に賑やかであつたと想像されます。

奈良県内で、今も立山を作っている所として、御所市名柄の天満宮（7月25日）、橿原市北八木の愛宕神社（8月23日から25日）、北葛城郡広陵町大垣内の専光寺（8月24日）があります。写真1（名柄在住の澤房之介さん撮影）は、平成24年の名柄

文政13年（1830）のおかげ参りに関し、今回は、宿泊の世話等の施行が終わった後の行事、神宮町にある太神宮の社の由来等について説明します。終わった後の行事については、御所市指定文化財の中にある「毎にありし立山作りもの次第書」に書かれています。立山というのは、祭りの時などに作られる飾りものことです。

施行は、9月8日（現在の暦では10月26日）に終わりました。1日の宿泊者の最大は、始まってから9日目の223人でしたが、この日はわずか11人です。秋になって、おかげ参りは下火になったようです。

その後、9月26日に立山の制作・太々神楽・餅つきなどをしたとあり



写真1 名柄の立山

の立山です。

同じ日に、太々神楽を奏したとありますが、太々神楽は、伊勢で行われる神楽です。伊勢神宮へ参詣したとき、布教活動をしている御師（伊勢では「おんし」）のところに泊まり、太々神楽を見るのが慣例になっていったようです。

立山や太々神楽の見物のために、近隣の村々からも大勢の人たちが来たと書かれています。そして、3石（約450石）ほどのお餅をつき、手伝ってくれた人たちや、寄付をした人たちに配ったとあります。いろいろの大きさのお鏡を作ったとありますので、寄付の量等にに応じて使い分けたようです。

御所市指定文化財の中に「奉正遷宮町中安全」と書かれた木札（写真2）があり、日付は嘉永元年（1848）4月16日です。この他に、社や灯笼の概略図があります。正遷宮というのは、伊勢神宮で新宮に神座を移すことです。伊勢神宮では、今年正遷宮が予定されています。

4月号で取り上げた「寄進帳」の中に、毎昼夜太神宮様に献灯したと書いてあります。宿を提供した蔵屋敷に太神宮の神棚があったようです。蔵屋敷が老朽化したため取り壊され、代わりに太神宮の新しい社が建てられて、木札の日付の日に遷

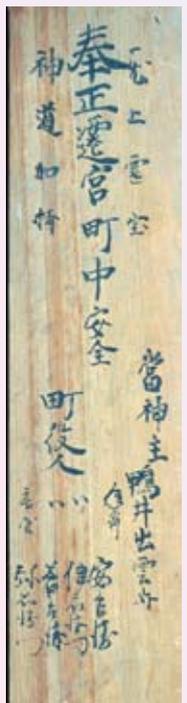


写真2 太神宮の木札

宮が行われたと考えられます。その後、何回か建て替えられたようですが、写真3は、現在の社です。

現在、「太神宮さん」のお祭りは、6月16日です。なぜ、この日なのかはわかりませんが、遷宮と同じ4月16日に実施していたのが、旧暦から新暦に変わった時に、2ヶ月ずらせた可能性が考えられます。この祭りの時に、各家庭では「柿の葉寿司」が作られます。また、戦前は立山を作っていたというのですが、現在は、小学生の絵や習字などが飾られるようになっていきます。

（文責 中井陽二）



写真3 太神宮の社